

横田医療チーム 全米公衆衛生週間の取り組み Yokota medical team takes action during National Public Health Week

April 12, 2023

By Staff Sgt. Spencer Tobler
374th Airlift Wing Public Affairs

第374運用医療即応中隊は、4月3日から7日までの「全米公衆衛生週間」を記念し、今年のテーマである「健康を形成する文化に目を向け、祝す」ための啓蒙活動を行った。

米国では公衆衛生の専門家の貢献を称え、国全体にも影響を及ぼす可能性がある問題に光を当てるために、1995年に毎年4月の第1週を「全米公衆衛生週間」と定めている。

第374運用医療即応中隊公衆衛生担当下士官ミゲル・ブエナフロー軍曹は、「公衆衛生課は、医療のあらゆる面で役割を担っている」と述べ、「この期間中、基地住民に公衆衛生課の活動を知ってもらい、日常生活で使えるツールや情報を提供する。日ごとにトピックや対象を変え、今年のテーマに沿った活動を推進する」と説明した。

公衆衛生課のチームは、各中隊を訪れ「リプロダクティブ・ヘルス」やメンタルヘルス従事者と連携して「DV防止」の講習会を開いたり、基地内のさまざまな食事施設で食品安全講習会を開催した。

第374運用医療即応中隊公衆衛生小隊長シルビア・ガルシア曹長は、「公衆衛生課としての使命の一つは予防だ」と述べ、「この期間のイベントは、潜在的な問題を特定し防ぐために重要で、かつ健全な軍隊を促進する」と言及した。

公衆衛生課チームはまた、アメリカ・ボーイスカウト第45団に講義を行い、コミュニティーの健康を維持・観察することの意義を理解したことを認定する公衆衛生功労バッジを子供たちに付与した。

ガルシア曹長は、「空兵たちの活躍を誇りに思う」と述べ、「我々がどういった役割を担っているか、なぜ我々の仕事が必要なのか、公衆衛生意識の普及に努め、何よりその過程でプロ意識、リーダーシップ、そして無私の卓越性を発揮した」と語った。

